



のざわテットーひろば・コンセンサス

これは、ひろばに関わるすべての人が、自分の判断で動くための「考え方の土台」です。

子どもや利用者のためになると感じたとき、この指針に沿って、自由にしなやかに判断し、関わり合う場でありたいと願っています。

1. テットーは、子どもが主役のひろばです。

子どもは管理される存在ではなく、自ら選び、感じ、試し、失敗することで育ちます。

大人はそのプロセスを見守り、時にともに遊びます。

2. テットーは、自由と安全が両立する場です。

どろんこになる、木に登る、ケンカする、つくる、壊す、ぼーっとする。

テットーはその自由を奪わず、できる限り制限せずに見守ります。でも、誰かが大きなケガをしそうなときや命に関わるような危険があるときには、迷わず止めます。

3. テットーは、おしゃべりで、おせっかいで、しらんぷりしない場です。

名前を呼び合い、気になることに口を出し、時にはそっと寄り添います。

小さな声も、大切に拾い上げます。

4. テットーは、来園者みんなで育てていく場です。

共につくり、感じ、支え合う仲間としてこの場所を大切にします。

親もその一員として、場づくりに関わることで、子どもと一緒に育っていきます。

5. テットーは、まちぐるみで子どもを育む場です。

テットーは、親子だけでなく、近隣の方々ともゆるやかにつながり、地域全体で子どもの育ちを支える場でありたいと考えています。

地域の皆さんにとっても、誰かと話したり、ちょっと立ち寄ったりできる場所があることが、日々の安心や楽しさにつながります。

2025年4月1日 NPO法人 野沢3丁目遊び場づくりの会

策定の背景

ある日、お当番さんから「来園者さんが家族との関係に悩んでいるようだ」と相談がありました。話を聞くことはできたけれど、それ以上どう関わっていいかわからず、もどかしさが残ったと言います。

その出来事をきっかけに、もう少し踏み込んだ“おせっかい”ができてもいいのでは、と感じました。マニュアルではなく、その場にいる人が考えて動けるように——そんな思いから、この指針が生まれました。